

# 宝塚市立病院中期事業計画2014 総括報告

## はじめに

宝塚市立病院は昭和59年(1984年)の開設以来、地域医療の中核的な役割を果たしてきましたが、平成20年度(2008年度)の決算見込みで当年度の留保資金がマイナスになるなど、多くの公立病院と同様、早急な経営改革が喫緊の課題となっていました。

国は必要な医療機能を備えた体制を整備するとともに、経営の効率化を図り、持続可能な病院経営を目指すため、平成19年(2007年)12月に「公立病院改革ガイドライン」を策定し、公立病院を設置する各自治体に改革プランの策定を要請しました。

宝塚市においては、平成20年(2008年)3月の「宝塚市病院事業運営審議会答申」を基礎として、本院が今後地域において果たすべき役割を明確にし、具体的に行動する指針として、平成21年(2009年)4月から平成26年(2014年)3月までの5か年を計画期間とする「宝塚市立病院改革プラン」(以下「改革プラン」という。)を策定しました。

改革プランの期間においては、阪神北圏域の中核的病院として地域における病病連携及び病診連携の充実を進めながら、地域住民の医療を確保し、併せて医師の実地教育、医療技術者等の教育、医学・医術の進歩のための研究、住民の健康保持のための公衆衛生活動を行うことによって、地域住民の福祉を増進させ、良質な医療を安定的、継続的に提供する使命があると考え、医療機能の向上と経営改善に取り組み、一定の成果を上げました。

改革プラン期間中に一定の成果はあったものの、平成25年度までの旧公営企業会計基準下での黒字化の達成はできなかったことから、引き続いて改革を進めるため、平成26年(2014年)3月の「宝塚市病院事業運営審議会答申」に基づいて、平成26年(2014年)4月から平成30年(2018年)3月までの4か年を計画期間とする「宝塚市立病院中期事業計画2014」(以下「中期事業計画」という。)を策定しました。

中期事業計画期間においては、病病連携や病診連携に止まらず、在宅医療、介護の領域も含めた地域包括ケアシステムの構築に資するよう、地域の中核病院として取り組むこととしました。しかし、平成27年(2015年)3月に国から「新公立病院ガイドライン」が示されたため、新たな公立病院改革の取り組みを開始することとなり、中期事業計画は対象期間1年を残し、平成28年度(2016年度)末をもって終了することとなりました。

中期事業計画の取り組み結果について、以下に取りまとめました。

## 1. 決算

<改革プランと決算、中期事業計画と決算見込の比較>

(単位:百万円)

<指標等>	H25		H26		H27		H28	
	改革プラン	決算値	事業計画	決算値	事業計画	決算値	事業計画	決算値
医業収益	9,622	9,309	9,946	9,194	9,975	9,962	10,097	10,418
入院収益	6,151	5,806	6,441	5,879	6,443	6,379	6,504	6,659
外来収益	2,709	2,765	2,837	2,683	2,863	2,938	2,922	3,070
その他	761	738	668	632	669	644	671	689
医業費用	9,913	10,100	9,960	10,065	10,053	10,657	10,281	11,252
給与費	5,478	5,605	5,381	5,415	5,455	5,868	5,569	6,297
材料費	1,904	1,930	1,917	1,968	1,930	2,167	1,926	2,310
経費等	2,531	2,565	2,662	2,682	2,668	2,621	2,786	2,646
医業収支	-292	-791	-14	-872	-78	-695	-184	-835
経常収支	77	-463	519	-339	509	-127	307	-249
当期損益	45	-380	1,553	715	506	-126	304	-256

※平成26年度の当期損益は、公営企業会計基準の変更によって特別利益を計上しています。

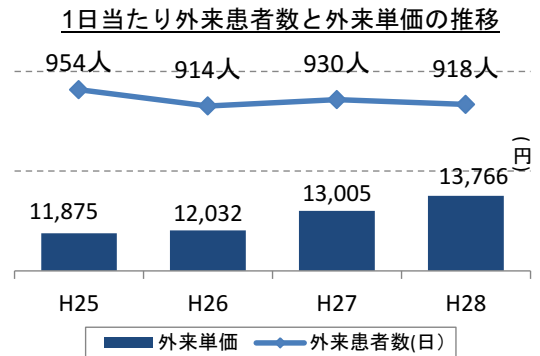
<指標等>

項目	H25		H26		H27		H28	
	改革プラン	決算値	事業計画	決算値	事業計画	決算見込	事業計画	決算見込
経常収支比率	100.8%	95.5%	105.1%	96.8%	104.1%	98.9%	102.2%	97.9%
職員給与費比率	56.9%	60.2%	54.1%	58.9%	54.7%	58.9%	55.2%	60.4%
病床利用率(許可)	74.7%	71.8%	73.5%	70.4%	73.1%	75.2%	72.6%	78.3%
病床利用率(稼働)	90.7%	87.3%	89.4%	85.5%	88.8%	85.7%	88.3%	87.3%

2. 外来・救急・小児救急・災害・周産期

基礎資料

	H25	H26	H27	H28
外来患者数(日)	954.4人	913.7人	929.8人	917.7人
初診患者数(日)	137.5人	130.6人	137.4人	125.6人
再診患者数(日)	816.9人	783.1人	792.4人	792.1人
外来単価	11,875円	12,032円	13,005円	13,766円

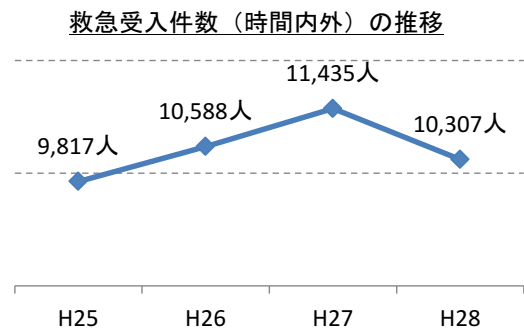


取り組み項目	進捗状況
救急医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休止中の病棟を平成27年7月より24床の救急医療センターとしてオープンした。</li> <li>・その結果、救急受入件数、救急車受入件数ともに増加。</li> <li>・宝塚市消防からの搬送件数は、平成27年の9,567件から平成28年は9,633件と0.7%増加したが、本院の救急受入件数は11,436件から10,307件と9.3%減少し、特にその内の救急自動車の受入件数は4,767件から4,538件と4.8%減少した。他市からの救急車の減少が認められた。</li> </ul>

(ア)-1 救急受入に関する指標

	H25	H26	H27	H28
救急受入件数(時間内外)	9,817人	10,588人	11,435人	10,307人
うち、救急車受入件数	3,841人	4,044人	4,767人	4,538人
救急受入件数(時間外)	8,569人	9,014人	9,824人	8,648人
入院化率	26.1%	26.8%	26.2%	29.6%
医師当直延回数	3,113回	3,056回	3,089回	3,160回

※時間外(平日の16:45~翌日8:00、土日祝日)



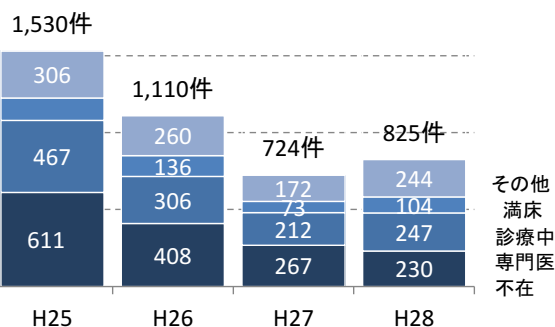
(ア)-2 重症患者の救急受入に関する指標

	H25	H26	H27	H28
ICU緊急入院件数	164人	229人	228人	201人
心肺停止件数	73人	109人	106人	107人

理由別、救急受入困難件数の推移

(ア)-1 救急受入困難に関する指標

	H25	H26	H27	H28
救急受入困難件数	1,530件	1,110件	724件	825件
専門医不在	611件	408件	267件	230件
診療中	467件	306件	212件	247件
満床	146件	136件	73件	104件
その他	306件	260件	172件	244件

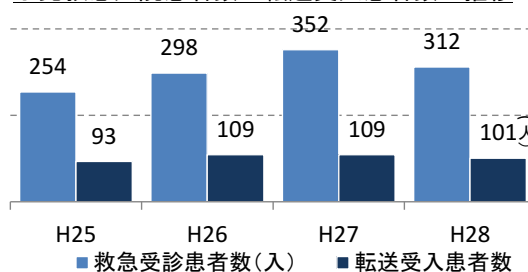


取り組み項目	進捗状況
小児救急を含む小児医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阪神北こども急病センターの阪神北圏域での病院輪番制を継続している。</li> <li>・平成28年度は、阪神北こども急病センターの受診者数が5.1%減少したことで、本院への転送患者も減少した。</li> </ul>

(イ) 重症患者の救急受入に関する指標

	H25	H26	H27	H28
救急受診患者数(外)	367人	329人	458人	476人
救急受診患者数(入)	254人	298人	352人	312人
救急受診患者数(計)	621人	627人	810人	788人
転送受入患者数	93人	109人	109人	101人

小児救急入院患者数と転送受入患者数の推移



※転送受入患者数: 阪神北こども急病センターから入院目的で転送された患者数

取り組み項目	進捗状況
災害医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年3月にDMAT 1隊を結成した。</li> <li>・平成27年3月に補助金を受けDMATカーを導入した。</li> <li>・毎年3月に災害時のトリアージ訓練を実施している。</li> <li>・熊本地震において、平成28年4月16日から20日まで、医師1名、看護師4名、薬剤師1名、臨床工学技士1名の計7名をDMAT隊としてDMATカーで派遣した。</li> </ul>

取り組み項目	進捗状況
周産期医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成20年度より常勤産婦人科医が不在となり、非常勤医による外来診療のみとなった。</li> <li>・平成27年度より、宝塚市と伊丹市の産婦人科連携<sup>※</sup>を開始</li> <li>・平成27年12月より市立伊丹病院の分娩が再開し、同年度の分娩数61件のうち宝塚市民は5件であった。</li> <li>・平成28年度の市立伊丹病院での分娩数は285件で、うち、宝塚市民の分娩数は39件であった。</li> <li>・週5日の婦人科外来における応援医師については、兵庫医大から3日、市立伊丹病院と阪大から2日の体制を継続中。</li> </ul>

※市立伊丹病院との産婦人科連携について

宝塚市立病院の周産期医療の提供体制については、宝塚市と伊丹市が産婦人科連携の協定を締結し、分娩を市立伊丹病院が受け持ち、高齢妊娠や合併症妊娠等のリスクの高い出産や低出生体重児に対応できる周産期医療体制の構築を進めることで、地域の周産期医療を守る取組を行っています。

この連携によって、平成27年4月に市立伊丹病院の産婦人科は大阪大学医学部産科学婦人科学教室の支援を受けて再開しました。

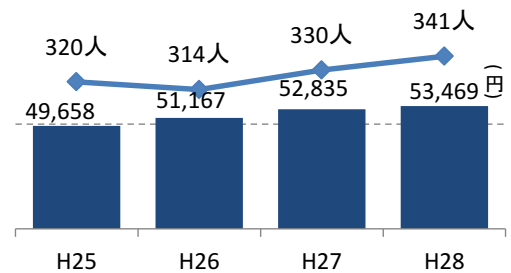
宝塚市立病院は、両院での産婦人科医師の連携と交流を進め、市立伊丹病院と大阪大学から本院産婦人科外来への医師派遣を受けながら、連携開始5年後を目途に婦人科入院診療の再開に向けて取り組むこととしています。

### 3. がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病・精神

1日あたり入院患者数と入院単価

基礎資料

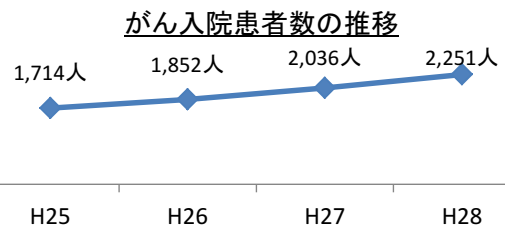
	H25	H26	H27	H28
入院患者数（日）	320.3人	314.0人	329.9人	341.2人
新入院患者数（年）	8,880人	9,248人	10,354人	10,530人
平均在院日数	12.2日	11.4日	11.6日	11.5日
入院単価	49,658円	51,167円	52,835円	53,469円



取り組み項目	進捗状況
がん	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年4月に専門的ながん診療の機能を有する病院に指定。</li> <li>平成28年7月より腫瘍内科を標榜。</li> <li>病理診断医を採用し、平成29年度から病理診断科を標榜することになった。</li> <li>平成30年度より、放射線治療、化学療法、がん相談機能をもった、がんセンターがオープン予定。</li> </ul>

(ア)-1 がん入院患者数

	H25	H26	H27	H28
がん入院患者数	1,714人	1,852人	2,036人	2,251人



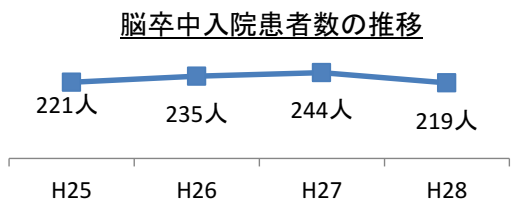
(ア)-2 外来化学療法の患者数

	H25	H26	H27	H28
外来化学療法患者数	2,130人	1,859人	2,279人	2,572人

取り組み項目	進捗状況
脳卒中	引き続き、脳卒中入院患者の積極的な患者受け入れを図る。

(イ) 脳卒中入院患者数

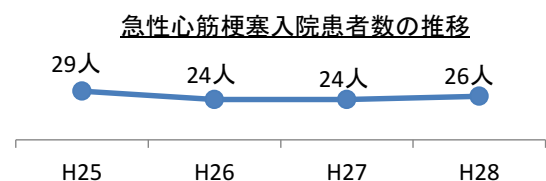
	H25	H26	H27	H28
脳卒中入院患者数	221人	235人	244人	219人



取り組み項目	進捗状況
急性心筋梗塞	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンコールでの24時間の緊急カテーテル体制をとった。</li> <li>下肢の閉塞性動脈硬化症の治療と併せて、心臓カテーテル治療を行った。</li> </ul>

(ウ) 急性心筋梗塞入院患者数

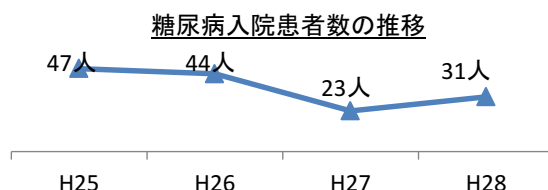
	H25	H26	H27	H28
急性心筋梗塞入院患者	29人	24人	24人	26人



取り組み項目	進捗状況
糖尿病	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期的には引き続き内科系医師が、入院が必要な糖尿病患者入院を受け入れているが、専門医確保は困難な状況が続いた。</li> <li>・平成29年度より糖尿病専門医の確保ができた。</li> </ul>

(エ) 糖尿病入院患者数

	H25	H26	H27	H28
糖尿病入院患者数	47人	44人	23人	31人



取り組み項目	進捗状況
精神疾患	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常勤医による週2日間の外来を継続している。</li> <li>・入院中のせん妄患者や、認知症患者については、認知症看護認定看護師や精神看護専門看護師による支援を行った。</li> <li>・認知症ケア加算の算定に向けて、各病棟看護師が研修を受講している。</li> </ul>

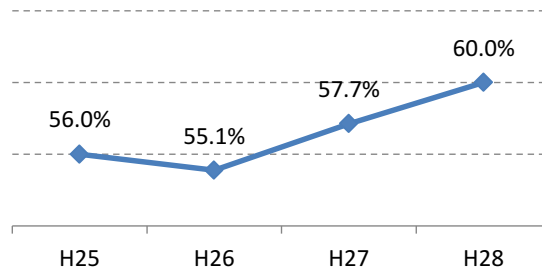
#### 4. 手術・後発医薬品

取り組み項目	進捗状況
難度の高い手術の増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手術件数の増加とともに、手術室稼働率も向上した。</li> <li>・悪性腫瘍手術件数は若干減少した。</li> <li>・中央手術室運営委員会で効率的な手術室運用について継続して検討を行っている。</li> </ul>

手術室稼働率の推移

(ア)-1 手術室の稼働に関する指標

	H25	H26	H27	H28
手術室稼働率	56.0%	55.1%	57.7%	60.0%



(ア)-2 手術難度に関する指標

	H25	H26	H27	H28
全身麻酔件数	1,343件	1,410件	1,616件	1,618件
その他麻酔件数	1,884件	1,749件	1,829件	1,915件
合計(手術件数)	3,227件	3,159件	3,445件	3,533件
悪性腫瘍手術	472件	478件	421件	434件
緊急手術	309件	280件	292件	265件

全麻、局麻件数の推移



取り組み項目	進捗状況
後発医薬品の使用促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後発医薬品への切り替えが推進され、平成28年度は、後発医薬品の数量シェアが82.7%となり、DPCの機能評価係数Ⅱの後発医薬品係数は最大値となった。</li> </ul>

(イ) 全医薬品購入品目数に対する後発医薬品購入品目数の割合（～H25）、後発医療品の数量シェア（H26～）

	H25	H26	H27	H28
後発医薬品割合	11.5%	-	-	-
後発医療品の数量シェア	-	78.9%	80.5%	82.7%

平成26年度の診療報酬改定で、後発医薬品の数量シェアによって評価されることになったため、進捗管理方法を変更した。

後発医薬品の数量シェア=後発薬品数÷(後発医薬品がある先発薬品数+後発薬品数)

## 5. 職員確保

取り組み項目	進捗状況
職員数の適正化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師以外の職員の採用には経営会議の承認を経るなど人件費の抑制に取り組んだが、必要な医療を提供するための人員増と、退職給付費の増などによって給与費の増嵩が継続している。</li> <li>・救急医療センターの開設や夜間看護体制の強化など、良質で安全な医療を確保するため、平成27年7月より条例上の定数を見直し、580名を650名に増員した。</li> </ul>

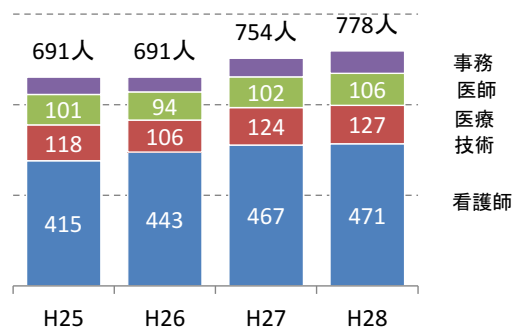
(ウ)-1 職員数(常勤換算)

雇用形態別	H25	H26	H27	H28
正規職員	529人	534人	576人	605人
嘱託、臨時職員	162人	157人	178人	173人
合計	691人	691人	754人	778人

職種別	H25	H26	H27	H28
医師	101人	94人	102人	106人
看護部門職員	415人	443人	467人	471人
医療技術職員	118人	106人	124人	127人
事務職員	57人	48人	61人	74人
合計	691人	691人	754人	778人

※各年度平均職員数

職種別職員数の推移



(ウ)-2 医師確保に関する指標

(単位：千円)

	H25	H26	H27	H28
医師数(正規+嘱託)	101人	101人	108人	106人
うち、女性医師数	20人	27人	27人	22人
特殊勤務手当	476,194	364,228	365,390	409,946
証明書等取扱枚数	3,922枚	3,855枚	4,062枚	4,647枚

※各年度平均職員数

(ウ)-3 研修医確保に関する指標

	H25	H26	H27	H28
臨床研修医数	13人	13人	13人	14人
後期研修医数	7人	8人	8人	9人

※各年4月1日現在

(ウ)-4 看護師定着に関する指標

	H25	H26	H27	H28
看護師数（正）	340人	356人	381人	403人
看護師数（嘱、臨）	75人	64人	65人	35人
合計	415人	420人	446人	438人
産休、育休取得者数	94人	42人	18人	41人
看護師離職率	9.8%	9.2%	6.5%	8.0%
看護師離職率（新人）	2.0%	18.2%	20.0%	13.8%

※各年度平均看護師数（常勤換算）

## 6. 業務の効率化

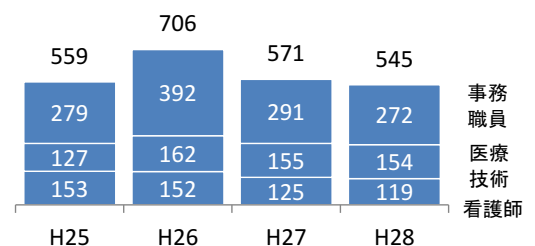
取り組み項目	進捗状況
業務の効率化と業務改善による時間外勤務の縮減	・入院支援センターにて、入院が決定した患者さんの情報を取得して病棟と共有し、課題がある場合は事前に対応することなどによって、病棟看護師の事務的業務が軽減し、時間外勤務の増加に歯止めがかかった。

(エ)-1 1人当たり時間外勤務時間（正規のみ）

（単位：時間/年）

1人当たり時間外勤務時間の推移

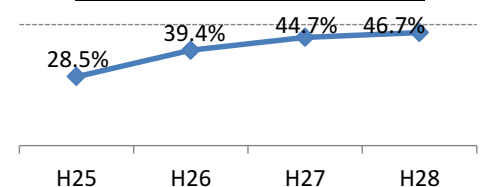
	H25	H26	H27	H28
看護師	153	152	125	119
医療技術職員	127	162	155	154
事務職員	279	392	291	272
合計	559	706	571	545



(エ)-2 クリティカルパスに関する指標

	H25	H26	H27	H28
パス適用患者数	2,663人	3,786人	4,824人	5,176人
パス適用割合	28.5%	39.4%	44.7%	46.7%

クリティカルパス適用率の推移



(3)職員給与費比率

	H25	H26	H27	H28
職員給与費比率	60.2%	58.9%	58.9%	59.0%

※職員給与費比率＝（正規＋嘱託＋臨時職員の給与費）/医業収益

(4)総人件費

（単位：百万円）

	H25	H26	H27	H28
職員給与費(正、嘱、臨)	5,605	5,415	5,868	6,297
報償費	248	298	293	329
委託費（業務委託）	754	892	901	917
合計	6,607	6,605	7,062	7,543
総人件費対医業収益比率	71.0%	71.8%	70.9%	72.4%

※総人件費対医業収益比率＝（職員給与費+報償費+業務委託費）/医業収益

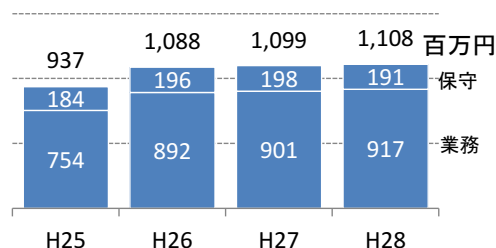


取り組み項目	進捗状況
保守点検業務委託の仕様見直しによる経費削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>保守対象機器が更新される機会に、保守契約の対象や保守内容などについて各契約の見直しを実施し、機器使用の実態にあった保守委託及び経費の削減を進めた。</li> <li>医療機器の保守契約費用の削減については、さらなる対策が必要である。</li> </ul>

委託費の推移

(オ) 委託費 (単位：百万円)

	H25	H26	H27	H28
業務委託	754	892	901	917
保守委託	184	196	198	191
委託費計	937	1,088	1,099	1,108



## 7. 材料費・未収金

取り組み項目	進捗状況
SPD再構築による適正な在庫管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続して在庫削減に取り組み、年度末棚卸額が減少した。</li> <li>材料毎に固有のバーコード管理を行い、使用期限、在庫量をタイムリーに把握できるようになった。</li> </ul>

(カ) 材料費に関する指標 (単位：百万円)

	H25	H26	H27	H28
薬品費	1,247	1,195	1,299	1,427
薬品費率	13.4%	13.0%	13.0%	13.5%
診療材料費	676	765	855	853
診療材料費率	7.3%	8.3%	8.6%	8.1%

薬品費率＝薬品費／医業収益、診療材料費率＝診療材料費／医業収益

取り組み項目	進捗状況
未収金対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>未収金が発生した早い段階から、回収事務に取りかかることで、未収金額の削減に努めており、引き続き患者未収金対策に向けて取り組む。</li> <li>回収困難事例については、弁護士法人に委託することで未収率の削減に取り組んだ。</li> </ul>

(キ) 患者未収金に関する指標 (単位：千円)

	H25	H26	H27	H28
患者未収金	64,598	34,804	34,542	41,319
患者未収金比率	0.6%	0.4%	0.3%	0.4%
過年度患者未収金	35,591	10,697	8,780	6,082

患者未収金比率＝患者未収金／医業収益

※過年度患者未収金：翌年度4月末時点

取り組み項目	進捗状況
広告の導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画に掲げた広告料収入の増加は達成できなかった。</li> </ul>

(ク) 広告収入 (単位：千円)

	H25	H26	H27	H28
広告収入	63	86	173	86



取り組み項目	進捗状況
売店のコンビニ化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来の売店から、コンビニの誘致を行い、プロポーザル方式で事業者を選定し、平成27年5月にファミリーマートがオープンした。</li> <li>・商品だけでなく、医療用材料の品揃えも充実させた。</li> </ul>

## 8. 放射線治療・MR増設

取り組み項目	進捗状況
放射線療法の開始に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院長を委員長とする(仮称)がんセンター準備委員会を設置し、センター業務開始に向けての準備ならびに、安全ながん医療の提供に向けた検討を多職種で実施した。</li> <li>・放射線治療棟の建築が平成28年12月に開始され、平成30年4月オープンに向けた事業が開始された。</li> </ul>
MRI増設に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度末よりMR装置2台稼働となった。</li> <li>・放射線科医師の減少の影響もあり、年間の検査数増は、平成27年度の4849件から平成28年度の5978件に留まった。</li> </ul>

## 9. 地域連携体制推進

取り組み項目	進捗状況
地域完結型医療の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年11月に兵庫県より地域医療支援病院に認定された。</li> <li>・地域の医療機関に対する細やかで丁寧な診療情報提供を実施し、紹介患者数の増加に努めた。</li> <li>・主に入院患者に対して、市内7病院で多剤投与(ポリファーマシー)削減に向けて、開業医にわかりやすく薬剤情報を提供できるよう報告様式を統一したが、今後、本院では、外来患者に対しても対応できるようシステム開発に取り組んでいる。</li> </ul>

### (ア)-1 紹介患者の受入強化に関する指標

	H25	H26	H27	H28
紹介率	53%	55%	58%	62%
逆紹介率	75%	89%	99%	102%
紹介患者数	10,218人	10,494人	11,446人	12,481人

紹介率=紹介患者の数/(初診患者数-(救急搬送患者数+時間外患者数))

逆紹介率=逆紹介患者の数/(初診患者数-(救急搬送患者数+時間外患者数))

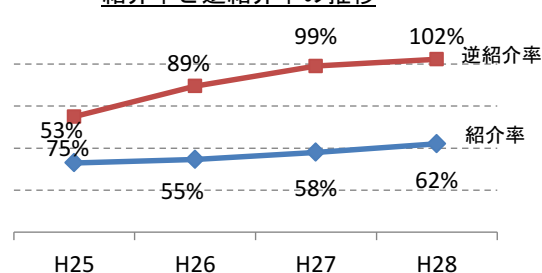
(平成26年度から算定式が上記に変わりました)

### (ア)-2 地域連携パスに関する指標(脳卒中)

	H25	H26	H27	H28
パス適用患者数	63人	72人	72人	51人
パス適用患者の割合	27.3%	28.1%	28.1%	25.2%
平均在院日数(パス患者)	29.0日	30.2日	30.2日	25.2日

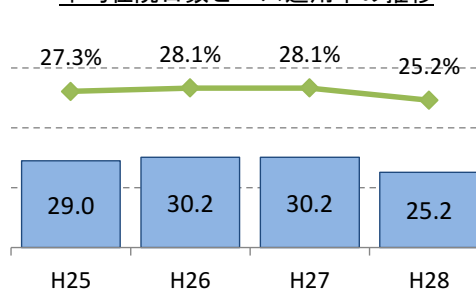
※平成21年度から運用開始

### 紹介率と逆紹介率の推移



### 脳卒中

#### 平均在院日数とパス適用率の推移



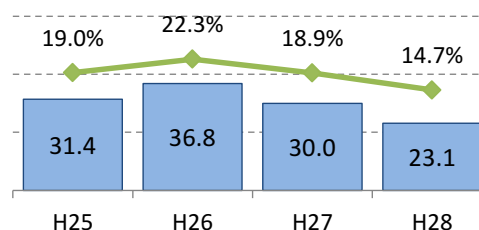
### 大腿骨頸部骨折

平均在院日数とパス適用率の推移

#### (ア)-3 地域連携パスにかかる指標(大腿骨頸部骨折)

	H25	H26	H27	H28
パス適用患者数	14人	21人	24人	18人
パス適用患者の割合	19.0%	22.3%	18.9%	14.7%
平均在院日数(パス患者)	31.4日	36.8日	30.0日	23.1日

※平成23年11月から運用開始



#### (ア)-4 地域連携パスに関する指標(胃がん、大腸がん)

	H25	H26	H27	H28
パス適用患者数	42人	60人	51人	30人

※平成25年4月から運用開始

取り組み項目	進捗状況
在宅・介護事業者との連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「市内7病院地域連携連絡会」を6回開催し、各病院の役割の明確化、連携、問題点などについて協議した。</li> <li>・すみれHeat.ねっとで地域医療機関への情報提供(1回/2ヶ月)</li> </ul>

#### (イ)-1 在宅・介護事業者との連携に関する指標

	H25	H26	H27	H28
地域連携診療計画管理料	78件	87件	96件	73件
退院時共同指導料2		104件	121件	153件

取り組み項目	進捗状況
疾病予防	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域包括ケアシステム研究会(3つの若葉を育てる会)」を共催し、医療・介護・福祉の連携を図っている。(毎月開催)</li> <li>・すみれCare.ねっとで介護・福祉関連施設へ情報提供している。(1回/3ヶ月)</li> </ul>

## 10. 多様な要求に応える病院を目指して

取り組み項目	進捗状況
医療安全の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インシデントレポート件数は平成25年度2778件、26年2922件、27年3805件、28年3922件となり、インシデントの報告が徹底され、オカレンス報告についても取組を開始した。</li> <li>・安全研修を定期的実施している。</li> <li>・月報、年報を作成し、月曜朝の全体ミーティングで報告するとともに院内メールで発信している。</li> </ul>
感染予防の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染対策室と専任ICDを中心に感染の資格を有した専従ICN、薬剤師、臨床検査技師等で構成されたICTが中心となり、各種サーベイランスや抗菌薬使用量の把握、感染対策防止マニュアルの改訂、最新の感染症診療や対策を実施、院内周知している。</li> <li>・平成28年度は難治性感染症の相談を792例受けた。</li> </ul>
安心の入院診療のために	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者総合サポートセンターの開設に向けて、地域医療室、入院支援センター、外来部門などの職員を中心として構成された検討チームで協議を進めた。</li> </ul>
病院機能評価の更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年1月に一般病院2及び、緩和ケア病院の機能種別版評価項目3rdG:Ver1.1の認定を受けた。</li> <li>・医療の質向上委員会において、認定時にB評価であった項目の改善に取り組んだ。</li> </ul>

取り組み項目	進捗状況
地域への情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療連携誌「すみれHeat.ねっと(年6回発行)」及び、「すみれCare.ねっと(年4回発行)」で地域の医療機関への情報提供を推進し、市民向けの啓発も推進した。</li> <li>・医療機関へ訪問を推進し、紹介・逆紹介への理解と退院支援への協力を要請した。一方、院内職員への地域医療連携強化の取組みへの理解を求め、地域連携が一層推進された。</li> <li>・市民公開講座を年4回実施した。</li> <li>・病院ホームページをリニューアルし、見やすさ、情報の探しやすさやスマートフォンへの対応を実施した。</li> </ul>

取り組み項目	進捗状況
総室の療養環境の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6人部屋の療養環境改善は引き続き課題とはしているが、経営面では病床数を減少させることは難しい状況にある。</li> <li>・患者さんの病状に応じたベッド位置の選定を行い、看護に支障のないよう取り組んでいる。</li> </ul>
待ち時間対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1階自動販売機コーナーに、テーブル3台、椅子5脚を設置し、待ち時間に院内コンビニ等で購入した食品を落ち着いて食べることができるスペースを確保した。</li> </ul>

取り組み項目	進捗状況
障がい者にやさしい医療の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院ホームページのリニューアル時に、ユーザビリティを確保した。</li> <li>・1階自動販売機コーナーに設置したテーブルの選定時に、車いすでも利用できるように配慮した。</li> </ul>

取り組み項目	進捗状況
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全・感染制御・倫理・接遇等、定期的に各部門主催の勉強会・研修を実施している。</li> <li>・専門医や専門看護師を初めとした各種資格の取得や、最新の知識習得のための学会・研修・セミナーへの積極的な参加を推奨している。</li> <li>・職員が発表を行った学会やセミナーについては、その成果を職員向け掲示板に掲示するとともに、院内ミーティングでのプレゼンテーションを行っている。</li> <li>・病院職員能力開発事業として自主学習への助成を行っている。</li> </ul>
適正な人事評価体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務職員については、半年毎に人事評価を実施している。</li> <li>・看護師についても、年3回の個人面談を行い、個人目標を立てたうえで能力開発を行っている。</li> <li>・医師・看護師・医療技術職の人事評価制度の構築に取り組んでいる。</li> </ul>

取り組み項目	進捗状況
職場環境の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全衛生委員会を毎月開催しており、年に一度の職場巡視を行い、より安全な職場環境の整備に努めている。</li> <li>・平成27年1月に設けられた育児短時間勤務制度を院内に周知し、出産・子育てをしながらでも働きやすい職場環境の整備に努めている。</li> <li>・院内保育所について、平成27年度に職員の保育ニーズの調査し、夜間保育についても利用可能とした。</li> </ul>